

『書経』

儒教の経書である『五経』の一つ。
中国神話に登場する堯・舜から
秦の穆公に至る記録をまとめた
もの。古代政治における君主と臣
下のやりとりが詳細に記され、多
種多様な教訓が示されており、史
書としても価値が高い。帝王学の
名著であり、我が国でも「昭和」や
「平成」など年号の出典として採
用されている。

備えあれば患えなし
うれ

『書経』

神道知識への誘ひ「先祖祭り」

人生の四大儀式といわれる「冠婚葬祭」。その内の「祭」は、神道では祖先の御霊を祀る祖霊祭や慰霊祭を、仏教では「法事」を指しています。共に「亡くなられた方の御霊安らかなれ」という心を込めて齋行しますが、仏教においては一般的には三十三回忌をもって法事を終了します。しかし神道においては五十年祭、百年祭と慰霊の祭に期限はありません。これは、神道では亡くなられた方の御霊は家の守り神となって、いつまでも子孫を見守ってくださる神さまとなるからです。祖先を特に意識する行

事の一つにお彼岸があります。お彼岸は仏教由来のものです。春分秋分の日に、宮中祭祀として明治十一年から春季皇霊祭、秋季皇霊祭が齋行されています。

それに倣い、講員や氏子が一堂に会して祖霊祭を齋行し、神職の話を聴いたり、親睦を深めたりする例もあります。

～毎日の先祖の祭り～

私たちが今在るのは、先祖の御蔭です。御霊舎、仏壇への毎日のご奉仕ご挨拶こそが最も身近な先祖の祭りではないでしょうか。

神社は心のふるさと

未来に受け継ごう「美しい国ぶり」
うるわ

東京都神社庁

<http://www.tokyo-jinjacho.or.jp>

